

名古屋城天守閣木造復元 市民向け説明会

<日時・場所>

令和5年1月21日（土）13時30分～ 鯉城ホール

次 第

1. 開 会
2. 講 演
名古屋城調査研究センター所長 服部 英雄 「名古屋城天守の秘密」
3. 名古屋市からの説明
4. 質疑応答
5. 閉 会

※名古屋市からの説明資料、及び、アンケートの内容につきましては、
後日、名古屋市公式ウェブサイトに掲載します。

名古屋城天守閣の整備

名古屋城の価値と意義

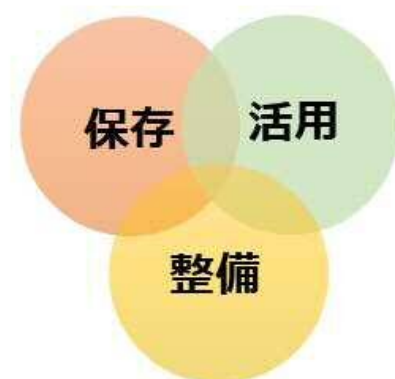
1

- 慶長15年（1610）築城開始
- 慶長18年（1613）以降、**清須越**が行われ、城下町が誕生
- 名古屋の都市形成と文化・芸能・産業のルーツ**
- 焼失前の天守は、城郭として**国宝（当時）第一号**に指定
（参考：国宝（当時）第二号は姫路城）



特別史跡名古屋城跡保存活用計画 2

- 平成30年度に策定
- 名古屋城を後世へつなぐための**保存**、魅力向上を図る**活用（公開）**、保存と活用のための**整備**を進める



名古屋城「本丸」の整備 3

○本丸整備基本構想

近世期最高水準の技術により築城された名古屋城の象徴である本丸の姿を現代に再現

- ・ 明治初期に姫路城とともに日本城郭の見本として永久保存されることとなった江戸期の名古屋城本丸の姿を再現する
- ・ 現存する石垣、建造物等の適切な保存管理と現存しないものの段階的な復元等により、**本丸全体を往時の姿が実体験できる場とする**

～本丸現況図～

不明門
 昭和 5年 (1930) 旧国宝指定
 昭和20年 (1945) 戦災により焼失
 昭和53年 (1978) 復元

大天守・小天守

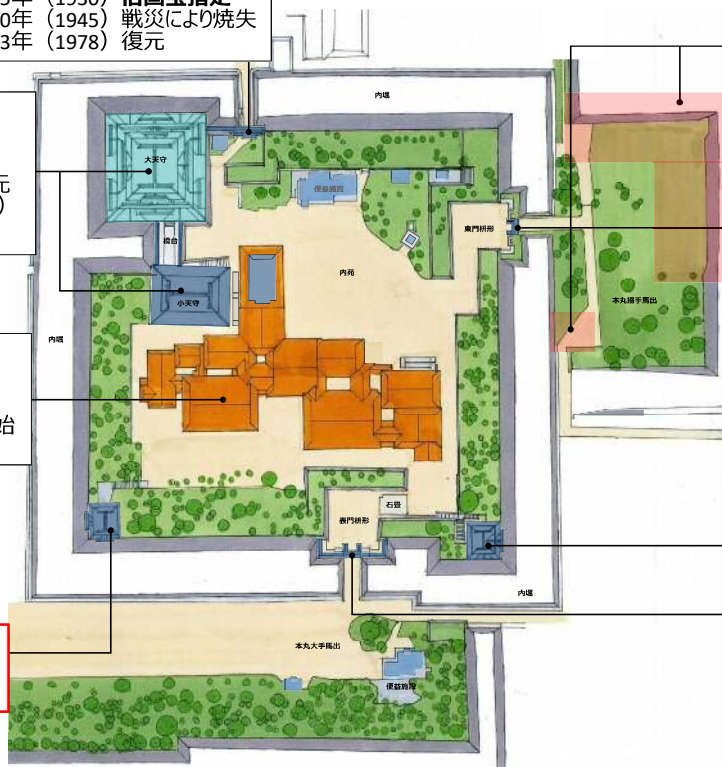
昭和 5年 (1930) 旧国宝指定
 昭和20年 (1945) 戦災により焼失
 昭和34年 (1959) SRC造により外観復元
 (宝暦大修理後の姿)
 ■ 現天守閣を解体し、木造天守を復元

本丸御殿

昭和 5年 (1930) 旧国宝指定
 昭和20年 (1945) 戦災により焼失
 平成21年 (2009) 3期に分けて復元開始
 平成30年 (2018) 完成公開

西南隅櫓

慶長17年 (1612) 頃完成
 昭和25年 (1950) 重要文化財指定



搦手馬出周辺石垣

■ 石材の解体をほぼ終了
 ■ 調査研究を踏まえ、積み直しを行う
 (平成14年度～修復整備中)

旧二之丸東二之門

慶長17年 (1612) 頃完成
 昭和47年 (1972) 移築
 愛知県体育館建設のため昭和38年解体
 ⇒ 保管していた部材を替えることなく移築
 昭和50年 (1975) 重要文化財指定

東南隅櫓

慶長17年 (1612) 頃完成
 昭和25年 (1950) 重要文化財指定

本丸表二之門

慶長17年 (1612) 頃完成
 昭和25年 (1950) 重要文化財指定
 ■ 保存修理方針を策定中

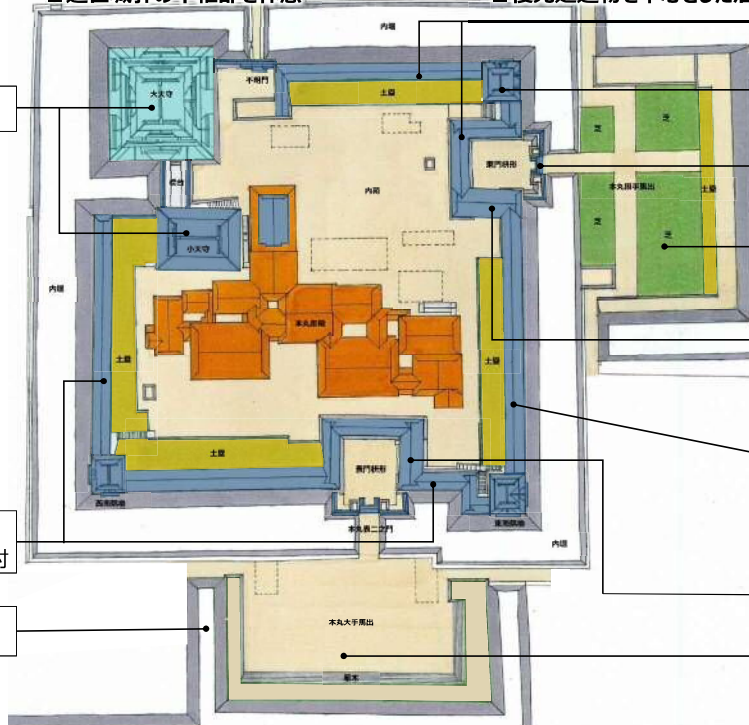
凡例 重要文化財

4

～本丸将来構想図～

近世期最高水準の技術により築城された名古屋城の象徴である本丸の姿を現代に再現する

- 現存する遺構及び建造物等の適切な保存
- 近世城郭の中核部を体感
- 変更された遺構や焼失建造物等の復元による歴史空間の再現
- 復元建造物を中心とした活用の展開



大天守・小天守 ⇒ 復元

ほしいい
楠多間櫓 ⇒ 復元手法を検討

東北隅櫓 (旧国宝) ⇒ 復元

本丸東二之門 (旧国宝) ⇒ 復元

本丸搦手馬出

本丸東一之門 (旧国宝) ⇒ 復元

あらめ
荒和布多間櫓
 はた
旗多間櫓
 やり
鏝多間櫓
 ⇒ 復元手法を検討

くそく
具足多間櫓 ⇒ 復元手法を検討

本丸表一之門 (旧国宝) ⇒ 復元

堀・石垣 ⇒ 復元手法を検討

本丸大手馬出

5

名古屋城「天守」の整備

6

○木造復元の意義

特別史跡名古屋城跡の
本質的価値の向上と理解の促進

- ・本丸に現存する櫓や門、復元する建造物等とあわせて江戸期の本丸を体感
- ・世界最大級の高層木造建造物
- ・伝統技術の継承と実践の場

ほか



歴史的
価値

世界的
価値

技術的
価値

名古屋城「天守」の整備

7

○復元の方針

- ・調査研究に基づく史実に忠実な復元
- ・遺構の保存に十分配慮した整備
- ・防災上の安全確保とバリアフリー



1. 特別史跡名古屋城跡木造天守整備基本計画

○経緯と進捗状況

○計画の位置付けと構成

○主な課題と検討状況

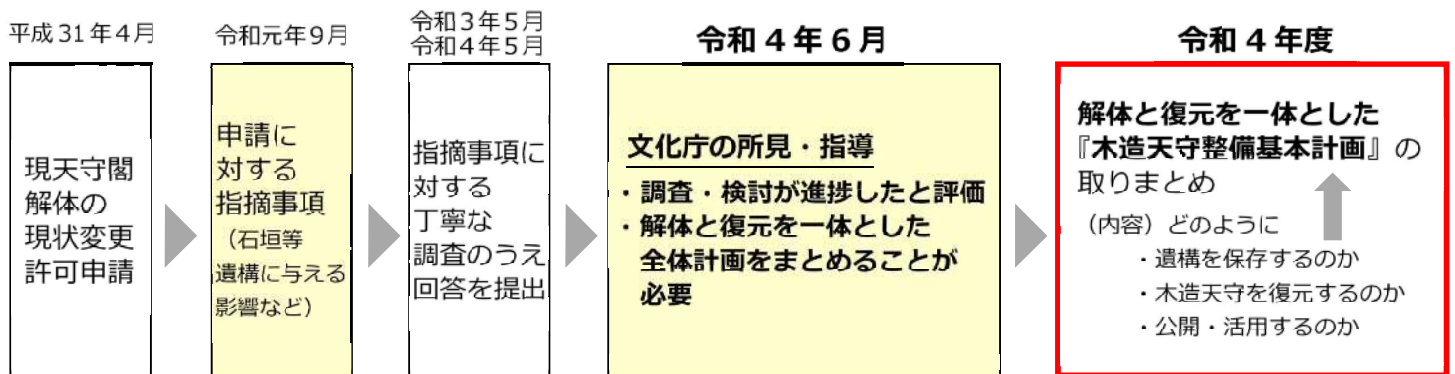
○今後の流れ

2. 木材の調達及び保管状況

3. 機運醸成

特別史跡名古屋城跡木造天守整備基本計画

○経緯と進捗状況



1. 特別史跡名古屋城跡木造天守整備基本計画

○経緯と進捗状況

○計画の位置付けと構成

○主な課題と検討状況

○今後の流れ

2. 木材の調達及び保管状況

3. 機運醸成

特別史跡名古屋城跡木造天守整備基本計画

○計画の位置づけ

- ・現天守閣の解体と木造復元の現状変更許可申請手続きを行うためには、文化庁の**復元検討委員会**での復元事業の妥当性についての議論が必要となる
- ・その議論の開始のために、解体と復元を一体とした全体計画を「**特別史跡名古屋城跡木造天守整備基本計画**」として取りまとめる

○計画の構成

- | | | | |
|-----|------------------|-----|-------------------------|
| 第1章 | 木造天守復元の概要 | 第5章 | 復元時代の設定 |
| 第2章 | 石垣等遺構の保存 | 第6章 | 復元原案の考証 |
| 第3章 | 現天守閣の記録の保存と記憶の継承 | 第7章 | 現天守閣の解体・木造天守復元時における仮設計画 |
| 第4章 | 復元の根拠資料 | 第8章 | 復元計画と活用 |

1. 特別史跡名古屋城跡木造天守整備基本計画

- 経緯と進捗状況
- 計画の位置付けと構成
- 主な課題と検討状況
- 今後の流れ

2. 木材の調達及び保管状況

3. 機運醸成

特別史跡名古屋城跡木造天守整備基本計画

○主な課題と検討状況

石垣保存方針と基礎構造の方針

- ・石垣保存の原則を第2章にまとめ、基礎構造については、今後第8章にまとめる予定。
- ・現天守閣解体後には、穴蔵石垣の全面的な発掘調査を行ったうえで、安全確保の対策と基礎構造について改めて具体的な方法を検討していく。



○主な課題と検討状況

バリアフリーの方針

- ・昇降技術の公募の概要

目的 公募によりできるだけ多くの方が使用できる昇降技術を募り
 実用化することで、史実に忠実な復元とバリアフリーの両立を実現

公募への高齢者、障害者等の参画

高齢者、障害者等からの意見を踏まえ、昇降技術を選定

- ・公募の結果

最優秀者	株式会社MHIエアロスペースプロダクション
提案技術	フェリー等の船舶内及び航空機搭乗機材への導入実績のある技術をベースに開発する垂直昇降設備

復元事業の進捗状況

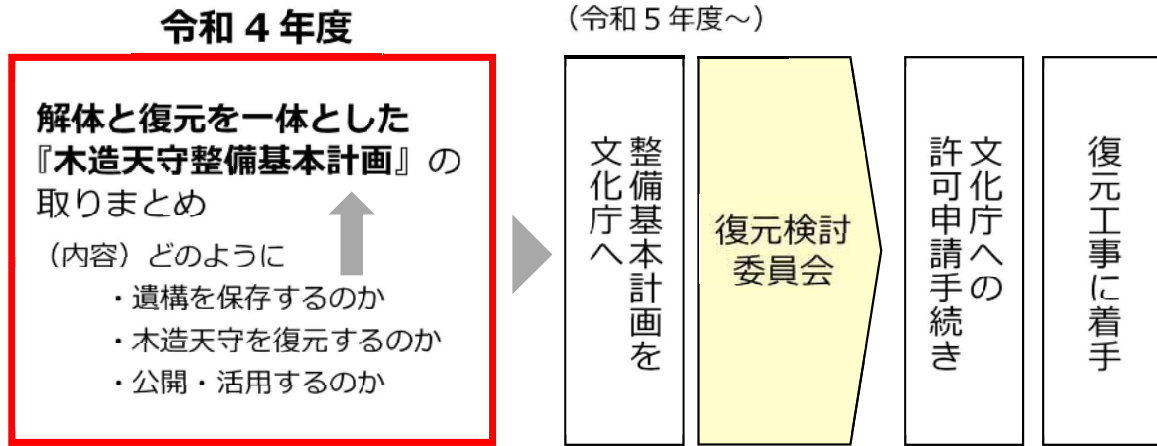
1. 特別史跡名古屋城跡木造天守整備基本計画

- 経緯と進捗状況
- 計画の位置付けと構成
- 主な課題と検討状況
- 今後の流れ

2. 木材の調達及び保管状況

3. 機運醸成

○今後の流れ



復元事業の進捗状況

1. 特別史跡名古屋城跡木造天守整備基本計画
 - 経緯と進捗状況
 - 計画の位置付けと構成
 - 主な課題と検討状況
 - 今後の流れ
2. 木材の調達及び保管状況
3. 機運醸成

2. 木材の調達及び保管状況

18

○木材の調達

- ・江戸時代、名古屋城を築城するため、裏木曽地域（中津川）から大量の木材を調達した記録が残っている。
- ・木造天守復元に使用する木材は、裏木曽地域をはじめとした木材関係者のご協力をいただき、全国各地から調達している。

○木材の保管状況（令和3年度末時点）



			内訳
保管場所	樹種	使用箇所	本数（本）
岐阜	桧・松	柱・梁	1, 178
愛知	桧・松・櫟	柱・梁	156
奈良	桧	柱	335
高知	桧	柱・梁	402
計	—	—	2, 071

復元事業の進捗状況

19

1. 特別史跡名古屋城跡木造天守整備基本計画

- 経緯と進捗状況
- 計画の位置付けと構成
- 主な課題と検討状況
- 今後の流れ

2. 木材の調達及び保管状況

3. 機運醸成

○寄附募集

いただいたご寄附は、木造復元事業に活用させていただいています。

イベント・城内での寄附募集



金シャチパートナー制度

木造復元事業をご支援いただけるパートナーを募集しています。

- ・ 売上げの一部の寄附
- ・ 物品支援
(企業等による製品の提供) など

復元事業の推進

○事業推進の取り組み

- ・ 文化庁や地元有識者からの指導・助言に基づき適切に対応する
- ・ 史跡全体の適切かつ厳格な保存を最優先にし、石垣をはじめとした遺構等に影響を及ぼすことのないよう、慎重に整備を進める
- ・ 市民の皆さまの木造復元事業への理解が深まるよう機運の醸成に努める



ご清聴ありがとうございました。

